



Title	大学における留学生・研究者のためのオンラインコミュニティー：GCN (Global Campus Net) Osaka の運営現状と課題
Author(s)	近藤, 佐知彦; 渡部, 留美
Citation	多文化社会と留学生交流 : 大阪大学留学生センター研究論集. 2007, 11, p. 65-71
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/50738
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大学における留学生・研究者のためのオンラインコミュニティー —GCN (Global Campus Net) Osaka の運営現状と課題—

近藤 佐知彦*・渡部 留美**

要 旨

大阪大学の留学生・研究者を主な対象としたオンラインコミュニティーサイト、GCN Osakaを紹介する。コンテンツの紹介、利用状況など、実際的にGCNがどのように運営されているのかを紹介することを通じ、大学におけるオンラインコミュニティーの運営について話題を提供する。

【キーワード】留学生、研究者、家族、支援、コミュニティー・ソリューション

1 はじめに

大阪大学の留学生・研究者を主な対象としたオンラインコミュニティーサイト、GCN (Global Campus Net) Osaka (以下GCNと略記) は、2004年5月に試行的に運営をスタートした。GCNとは、大阪大学工学研究科留学生相談部、芦沢真五助教授 (当時) が2003年度から2005年度にかけてフロンティア研究機構などの助成金を受けて行った実証研究が母体となつておらず、2006年度からは近藤が暫定的代表者となつた。現在は筆者らが2人の事務局スタッフを得て運営を続けている。後述するが、国際交流推進本部においては、このGCNを大阪大学の国際戦略の一つとして位置づけ、全学的なものとして運営していく方針となつてている。

GCNの第一の目的は、大阪大学の留学生・研究者が来日前、来日後、帰国前、帰国後それぞれの段階で必要な情報をオンライン上で得られるという、いわゆる「ワンストップサービス」をオンライン上で実現することにある。その一方、大阪大学の留学生や研究者の受け入れを担当する教職員が必要な手続きについて調べたり、大阪大学周辺の地域住民 (日本人・外国人問わず) が情報を授受するのにも大いに役立たせることも出来るので、留学生・外国人研究者を対象とするの

みならず、学内関係者や地域の人々の広い意味での国際化に関する「ワンストップサービス」もしくはポータルとして機能することも望まれている。

GCN第二の目的は、「コミュニティー・ソリューション」という概念を用いて、情報を一方的に得るだけでなく、サイトに参加しているすべての関係者がときには情報提供者となりえることができる、そういう場を提供することである。適切なサイト設計を行い、また運用を行えばオンライン上でコミュニティーが形成され、種々の問題が解決できるのである。そのためにもGCNでは滞日外国人にとって「壁」となっている「情報の壁」を取り払うという役割を果たしているだけでなく、日英両語による併記を採用したり、多言語掲示板を提供してそれぞれの自国語で書き込みができるようにするなど、大阪大学に関する外国人に対して「言語の壁」をできるだけ低くするという工夫を行つている。

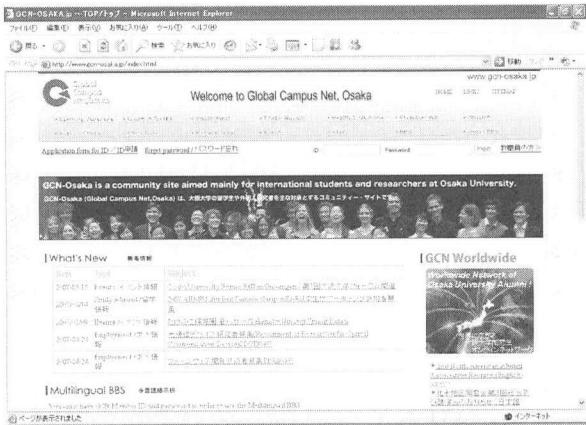
本稿ではコンテンツの紹介、利用状況など、実際的にGCNがどのように運営されているのかを紹介することを通じ、大学におけるオンラインコミュニティーの運営について話題を提供できればと考える。ちなみにURLは「<http://www.gcn-osaka.jp/>」であり、実際のサイトを参照しながら読み進んでいただけたとありがたい。

* 大阪大学留学生センター助教授

** 大阪大学国際企画室特任研究員

2 GCNのコンテンツ

GCNでは2007年1月現在、14項目のコンテンツメニューを用意している。以下、それぞれのコンテンツについて説明を行う。



2-1 日本語学習教材

本サイトで常にアクセス数が高いのが日本語学習教材であり、利用者の関心を集めているといつても過言ではない。メニューとしては、サイトを立ち上げた当初に開発された、初級レベルの日本語学習者のための「GCNいちょう日本語」、「理工系日本語学習教材」、2004年度に開発された「キャンパス単語帳」、「場面会話集」、2005年度に開発された「学校単語帳」そして「漢字と言葉」自主学習システム」がある。

「GCNいちょう日本語」は、大阪大学に所属する研究者、留学生や研究者の配偶者を対象にした留学生センターの日本語クラス「いちょう日本語」の授業内容にそったかたちで作成された。当時「いちょう日本語」を担当していた講師によって開発され、日本語の自学自習リソースとして利用すると同時に「いちょう日本語」参加者の復習や欠席した授業の内容の補習としても機能するように企画された。テキスト、クイズなどがダウンロードできるようになっている。

「キャンパス単語帳」は、渡部と工学部留学生相談部事務スタッフが共同で作成した辞書的ツールである。大学のなかで日常よく耳にするキャンパス独特の省略した言葉（追試、学食など）や、大阪大学独自の言葉

（再履バス¹、館下²）、北摂地方独特の言葉（いないち³、千中⁴）、関西地方の方言などを集めた単語帳であり、現在165単語掲載している。これらの言葉は、日本語教育では通常教えられることが少なく、日本語の流暢な外国人であっても理解することが困難であり、特に大阪大学や北摂地方独自の言葉については、日本人であっても最初は理解が不可能である。これらの単語帳を開発するにあたり、現役の学生（日本人学生および留学生）にヒアリング調査を行い、彼らが日常の会話で頻繁に使っている単語を取り上げた。しかし、なかには教授や世間一般の人に対しては使用しても理解されない、あるいは失礼にあたるような若者の間でしか通用しない単語もあり、使用に際しては注意を払うことを明記している。一単語につき一ページ割き、英訳や読み方、写真、関連する情報などを掲載し、音声で発音も確認できるようになっている。

「学校単語帳」は、札幌のボランティア団体「あかり」（当時）が作成した学校で使用される用語集「みんなで一緒に」から提供を受け、大阪地域のものに合うよう改良を加えたものである。掲載単語としては、「校長先生」「算数」「靴箱」などがあり、全部で331単語掲載している。英語のほか、中国語、韓国語、スペイン語での翻訳がある。翻訳だけでは理解が困難なものについては、説明や写真を掲載した。主に小学校に通う子供をもつ留学生や研究者だけでなく、地域に住む外国人にも利用していただけるものと考えている。

「漢字と言葉」自主学習システムは、『例文で学ぶ漢字と言葉』（西口光一著、スリーエーネットワーク、2005年）をオンライン上で練習・テストできるように開発されたものである。日本語能力試験2級の漢字1,023字および語い2,920語について、無作為に抽出して練習できるようになっている。学習（成績）履歴も残すことができる。現在は読み方のみの提供であるが、将来的に漢字認識力（書き）の開発も行いたいと考えている。

日本語学習教材については、地方自治体やNPO団体から「テキストを使用させてほしい」、「外国人に紹介したい」などの問い合わせが時々あり、今後も他の団体と情報を交換・共有するなど協力していきたいと

考えている。

さらに、GCNのID申請時のコメント欄に、「日本語を学習したいから」というものがしばしばみられ、「大阪大学に留学したいから」「大阪大学に留学生（研究者）として来日することになっているので勉強したい」など、大阪大学に何らかの関係を持っているものがアクセスしていることがわかる。今後ともこれら利用者のニーズにあった学習教材を開発していく必要があると感じている。

2-2 地域情報・生活情報

留学生や研究者も地域に暮らす一住民である。周辺地域に適応し、快適な生活が送れないと大学での研究成果も上がらないかもしれない。GCNでは、地域情報の提供にも力を入れている。

「保健・医療」では、外国人が健康に暮らせるための情報提供を行っている。特に、制度、生活習慣の違いから理解できない項目や専門的なことばについて平易な表現を用い、分かりやすく説明を行っている。コンテンツには、「国民健康保険の説明」、「救急時の対処」、「各種医療機関の紹介」、「多言語問診表」などがある。このコンテンツは、外国人の医療問題を専門に研究を行っている大阪大学人間科学研究科の教授および大学院生に作成をしていただいた。

「子育て」では、「子供の健康管理」、「地域の保育サービス」、「子育てサポート情報」、「学校」、「アレルギー」、「虐待」、「困ったときのお役立ち情報」など、子供を持つ外国人にとって有益な情報の提供を行っている。

「くらし」では、「災害時の対処方法」、「交通事故の処理方法」など実際の生活を営んでいくために必要な情報をNGOの協力を得て掲載している。大阪近郊各市の情報として、豊中市からは、毎月豊中市国際交流協会が発行するお知らせの英語、中国語、韓国語、スペイン語版によるチラシの提供を受け、掲載している。

2005年度に開発された「住宅情報」コンテンツでは、大学内外の宿舎情報を掲載しており、地域の住宅

斡旋業者の協力を得て、最新の宿舎情報を提供している。住宅情報検索システムを導入しており、地域、家賃、広さ、などの好みにあった項目を選択し、物件を検索することができる。留学生のニーズに合わせ、地域の協力業者には、比較的安い家賃や保証金で、家族も住めるような物件を提供するよう依頼している。

2-3 大学内の情報

大学内で留学生にとって必要かつ有益な情報の提供も行っている。

「奨学金」では、留学生に関する奨学金情報を掲載しており、文部科学省の国費留学生制度の紹介や最新の奨学金情報を提供している。大阪大学全体の奨学金であれば、学生交流推進課の職員に協力いただき、その都度掲載していただいている。これは、学内の掲示板に貼っているものと同じではあるが、掲示板にいちいち見に行かなくても、大学外からもアクセスし、みることができるために、留学生にとって便利なツールであると思われる。

「求人情報」では、留学生のための学内外のアルバイト情報、就職情報を提供している。アルバイト情報には、翻訳・通訳の仕事などがある。就職情報については、現在のところ、以前から工学研究科で年に2回ほど行っているキャリアセミナー参加の企業に限り情報提供をいただいているが、留学生に対する企業からのニーズの高まりにあわせて、今後は様々な企業の求人情報を掲載していく予定である。

2006年度に開発された「ビザ」では、留学生・研究者に関するビザの情報を提供している。留学生・研究者は、来日前、一時帰国、家族呼び寄せ、更新、滞在延期、資格変更、資格外活動、など、その時に応じてビザの申請が必要であるが、入国管理局に提出する書類が煩雑であり、手続きも面倒である。また、留学生を担当する部署、研究者を受け入れる研究室などでも、担当者が変わるたびに一から調べなければならない。このような手間を軽減するという目的もあり、開発を行った。フローチャートを作ったり、記入例を記載したり、書類がダウンロードできるようにするな

ど、このコンテンツをみれば全て解決できるように留学生・研究者が必要な手続きを網羅した。この開発にあたっては、行政書士の監修を受け、入管の方針や必要書類が変わるごとに更新する体制をとっている。

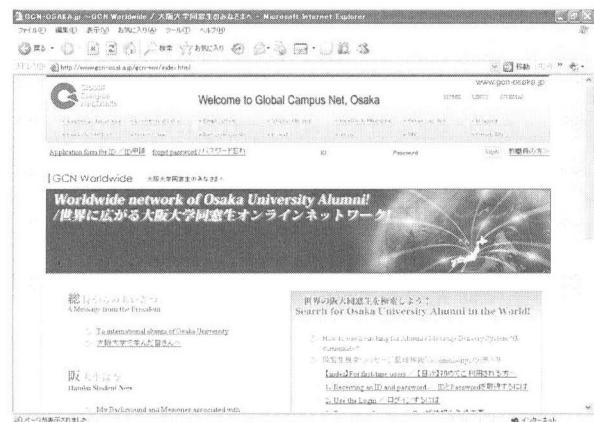
「留学」では、大阪大学から海外に留学する学生が必要な情報を掲載しており、サマープログラム、交換留学などの紹介、必要な手続きなどの提供を行っている。

2-4 GCN Worldwide

GCN Worldwide は、以前は別サイトであったが、2006年5月にGCNに統合された。GCN Worldwide は、大阪大学同窓生のためのサイトであり、主に大阪大学を卒業（修了）した留学生、海外在住日本人卒業（修了）生を対象としている。コンテンツの目玉としては、登録されているメンバー⁵を国名、出身部局などの条件で検索し、検索された同窓生あてにメッセージが配信できる、というものである。例えば、タイで同窓会を開催したいときにタイ在住の同窓生あてでメッセージを送信し呼びかける、海外に学会に出かけるときに現地に住んでいる同窓生から情報をもらう、など利用方法は様々考えられる。ただ、個々のメンバーが、情報を入力しないと検索に引っかからないので、より多くの同窓生に登録していただき、個人情報を入力、定期的にメール受信ボックスをチェックする（あるいは通常使用するメールに転送設定する）という作業をしなければ活性化しない。

2006年10月には、新たに「総長からの挨拶」、「阪大生は今」、「拠点便り」、「各種情報」のコンテンツを加えた。「阪大生は今」では、同窓生から、阪大での思い出、現在の仕事や行っている活動について文章を提供いただき、写真入りで紹介している。「拠点便り」は、大阪大学が設置している三つの海外拠点（教育研究センター）、サンフランシスコ（米国）、バンコク（タイ）、グローニンゲン（オランダ）に駐在している職員からセンターの活動報告や業務内容、現地の状況などについて報告をいただいたものを隔月掲載している。拠点の役割に、大阪大学への留学の相談、学会や

留学などで現地を訪問する阪大関係者への支援などがあるが、この報告文が少しでも参考になればと考えている。「各種情報」では、これまで開所式や阪大フォーラムの案内をしてきたが、今後は、同窓生にとって有益な助成金や公募などの情報も随時掲載していきたいと考えている。



GCN Worldwide は2006年10月に行われたバンコクでの教育研究センター開所式で行われた同窓会で紹介され、新たなメンバーの勧誘を行った。このメニューを通してより多くの同窓生にメンバーになっていただくだけでなく、大阪大学に留学を考えている者にとって有益なページになるよう今後もコンテンツの充実を図るつもりである。

2-5 多言語掲示板とグループBBS

本サイトの大きな特徴の一つは、掲示板への書き込みが多言語で行えることである。本サイトは、日英の二言語併記であり、どちらかの言語ができれば、情報は全て入手できるようにデザインされている。しかし、日本語、英語ともネイティブでない者、来日したばかりの者にとっては、コンテンツの細かいニュアンスが分からることもあるであろうし、また、学生や研究者の帶同家族などに対しては、日英二カ国語以外の情報提供が行われることが望ましいのは言うまでもない。専門的な用語が多い公的機関の書類・大学の用語などは理解が困難であろう。そのような外国人関係者が多言語掲示板を利用し、自国語で質問の書き込みを行い、その言語の分かるものが回答し、問題を解決できると

いうことにも役立つことが望まれる。例えば、来日直後あるいは、来日前の学生の質問に対し、先輩学生が回答するという流れが自然と出来上がれば理想的である。また、帯同家族が生活情報を母語で求めたとき、すでに大阪大学もしくは周辺の情報を知る母語話者が、その文化や生活スタイルに即した情報を発信することが出来れば、理想的なコミュニティ・ソリューションの場を提供することになる。実際これまで、日本語、英語のほか、韓国語、中国語による書き込みがみられている。掲示板は誰でも見ることができるが、書き込みはメンバーに限定されており、また中国語、韓国語のできる学生に書き込み内容のチェックを依頼しており、いたずらな書き込み防止に努めている。

2006年5月に新たにグループBBSを設置した。これは特定のグループごとの閉じられた掲示板である。グループを作成したい者が事務局に申請、許可されればグループを作り、メンバーを募ることができる。現在は、大阪大学短期交換プログラム (OUSSEP)、大阪大学教職員の中国語サークルなどがある。グループBBSの管理は全てリーダーに任せであるので、現在のところグループのリーダーは、阪大教職員に限っている。この掲示板には、写真やファイルなど添付する機能もあり、授業を休んだ者へのレジュメや宿題の配布をここで行うことができる。

3 GCNを支える人々

第1節で紹介したようにGCNのコンテンツには、様々な人々に情報の提供をいただいている、これらの提供者がいなければ、サイトの活性化はあり得ない。GCNでは、Webマスターが情報をもっぱら編集するのではなく、情報の発信者が直接、書き込みができる体制をとっている。このため、学内外の57名（学外は、地域のボランティア団体など14名）のメンバーを「コンテンツ配信者」として登録し、直接にそれぞれのメンバーが情報（たとえばイベント情報など）を入力してもらえるようなシステムを設計した。特に、住宅については2005年9月より生協と北千里商店街の協力により、阪大周辺の留学生向け物件情報を掲載し

ている。今後サイトを活性化させるためには、多方面からのより多くの情報提供を呼びかける必要がある。参考までに昨年下期のデータをあげる。

コンテンツ配信件数（2006年7月～2006年12月）

イベント	住宅	奨学金	求人	物品	留学	計
13	34	9	63	0	2	121

多言語掲示板についても、各種の情報が掲載されている。

掲示板の書き込み件数（2006年7月～2006年12月）

イベント	英語学習	くらし	求人	物品	留学	日本語学習	計
5	1	2	6	2	2	4	22

4 登録者数とアクセス数

2006年7月現在のメンバー数は2,686名であり、この内訳は、大阪大学所属の留学生1,437名、大阪大学卒業（修了）生758名、大阪大学研究者、留学生の家族65名、大阪大学教職員98名、大阪大学日本人学生25名、その他（国際交流団体、地域住民、他大学関係者など）303名となっている。2006年上期のアクセスについては右表の通りで、新学期前に情報を求めるユーザのニーズが高いことが良く分かる。

	総ログイン数	ログイン者数	平均訪問回数
1月	299	123	2.43
2月	593	327	1.81
3月	868	380	2.28
4月	806	497	1.62
5月	789	413	1.91
6月	120	86	1.39
7月	309	207	1.49
計	3784	2033	1.85

5 課題

5-1 登録者数の増加、認知度のアップ

現在の登録者数は、上述したように約2,700名である。大阪大学関係者以外の登録については、ほぼ毎日登録申請がきている状態であり、所属や登録動機などがはっきりとしているものに限りIDを発行している。一方、大阪大学関係者について考えると、大阪大学の留学生には、来日時にIDを配布しており、今後も入学してくる留学生については無条件でメンバーとさせることができる。しかしながら、学生交流推進課から各部局を通してIDを付与した大阪大学留学生のうち、そのIDを用いてログイン・正式登録したものは約3割に留まっている。ほとんどのコンテンツはログインをしなくとも閲覧が可能であるので、この3割という数字は、必ずしも正確ではないと思われるが、筆者らが出会う留学生との会話からは、GCNの存在を知っている者は多くはないと実感している。特に豊中キャンパスにおける浸透率は低いようである。

ログインIDが実際に学生の手元に届いていないことも考えられるが、IDの配布時期が大きく関係していると考えられる。

登録者数を増加するためには、利用者にとって有益な情報の提供を行い、サイトへの書き込み者を増やし、サイトを活性化させなければならない。一般的に、書き込みをする者は全体の利用者の約1割であると言われているが、今後は、外国人留学生・研究者だけではなく、より多くの正確な情報を持っているであろう日本人学生や教職員の利用者を増やす工夫が必要である。

5-2 コンテンツ配信者

安定した書き込みを確保し、常に「賑わっている」サイトにするためには、恒常的な情報提供者が必要である。核となるのがこれまで述べてきた「コンテンツ配信者」であるが、一部の「住宅情報」などを除いては配信者には経済的なインセンティブが付与されておらず、主としてボランタリーな動機によって情報提

供されている。したがって、前節で述べたように活性化されていないサイトには書き込み等を行いうインセンティブが付与されない。学外からの登録者300余名が喜んで情報提供出来るような環境を整えることが大切である。その一助として、年に数回GCN運営に参与してくださる学内外の関係者に集まつていただき、サイトを活性化するためのアイデアを頂くような機会を設けてきた。これはGCNが学内に向かって閉じた組織ではなく、広く学外からの協力も得ながら運営していく姿勢を明らかにしたものである。なお2005年度までに関しては実証研究サイトとして運営されてきた経緯があり、その範囲内で外部諸機関や関係者との連携が模索されてきた。今後大学の国際戦略の一環として運営されることになった場合、特に学外のコンテンツ配信者との連携をどのようにとっていくか、インセンティブ付与の仕方の工夫や、不測の事故が起った場合の責任の所在などについて、明確な指針と責任体系が必要となる。また研究サイトとしてのGCNは主として吹田地区において運用されてきた嫌いがあるが、今後大学のサイトとして運用を図る以上は、豊中地区や統合後には箕面地区への目配りを欠かすことは出来ない。そのためにも組織的に学内のみならず学外からの意見を徴する機会を確保する必要がある。

特に住宅情報については北千里商店街にご協力を頂いている関係から、やや吹田キャンパス近辺に情報が偏りがちである。大学のプロジェクトとしてGCNを運用していくに当たり、大阪外国語大学との統合などを考えあわせると、今後は豊中そして箕面の住宅に関しての情報の集積と提供とをすすめる必要がある。またそのための業者の選定や、コンテンツ配信の十分な確保が、GCNの今後を左右するであろう。

5-3 全学体制へのスムーズな移行

2007年1月現在、実験サイトとして出発したGCNについての運営は「国際交流推進本部、ワンストップ・サービス・オフィスワーキンググループ」の「GCN担当サブワーキング座長」の資格をもって、近藤が責任者となっている。これは全学体制が整うまでの移行

的措置であり、現状では不確定要素が多いものの、GCN関連のサービスは全学的なワンストップ・サービスと連携させつつ、その運営体制を再構築するという方向性はすでに固まっている。

ワンストップ・サービスについての詳細は、担当WGなどから答申が出されるのを待つことになるが、大まかに言って受け入れ前・渡日直後に必要となる情報提供、住宅宿泊に関するサービス、ビザ取得支援、といったサービスを大学として集約して一元的に提供し、留学生及び研究者受け入れの一助とする構想である。GCNに関してもすでに民間の住宅情報やビザ取得情報など、いくつかのコンテンツがこれらの業務と関連しており、今後ワンストップ・サービスを司る部署が出来た場合には、web上のワンストップとしてGCNがますます活用されていくことになる。また現在は教員の研究室内でスペースに悩まされつつサイトの運営を行っているのが現状であるが、ワンストップ・サービスの一環として、そのために用意されたスペースを利用しつつ、学内外の関係者が自由に集ってもらえるようなサイト運営を行わなければならない。

なお責任部局としては、国際交流推進本部のしかるべき部署がGCN運営の任にあたることになるであろうが、全学運用体制に即応した規約や組織作りなど、GCNをワンストップ・サービスと共に運用していくことについては、今後整備を要する事柄がいくつかあげられる。ただ、本原稿執筆時点で流動的な要素もあるため、GCNを十全の体制ですすめていくためには、大学が責任を持って運営できる体制作りが必要であることを声を大にして申し上げたい。

6 むすびに代えて

すでに説明してきたとおり、本サイトは学内外外国人人口をサポートするための試みとして、検証サイトとしてスタートしたものである。しかしワンストップ・サービスなどの必要に鑑み、全学でサポートしていく体制が整えられようとしている。繰り返しになるが、これはコミュニティ・ソリューションの試みである。大学という大きな機関が、その成員相互の助け合い、

そして近隣コミュニティからの援助を、適切に組織化していくという試みであり、サポートの形態や、責任の所在など、まだまだ模索の状態が続くと思われる。

読者諸兄には是非ともサイトを訪れ、大学が提供する新たなタイプの留学生・研究者サービスの形として、よりよくGCNを発展させていくためのアドバイスを頂けたら幸甚である。

最後にもう一度、URLは「<http://www.gcn.osaka.jp/>」。検索エンジンでGCNと検索していただいても、比較的上位に顔を出すはずである。

注)

注1：吹田、豊中キャンパス間を結ぶ連絡バスのこと

注2：豊中キャンパスにある図書館下にある食堂のこと

注3：府道171号線のこと

注4：千里中央のこと

注5：2004年度以降在籍の留学生には、大学からIDを発行している。

参考文献

金子郁容（2002）『コミュニティ・ソリューション：ボランタリーな問題解決における（新版）』岩波書店

金子郁容（1986）『ネットワーキングへの招待』中央公論社

クリス・ウェリー、ミランダ・モウブレイ編（2002）『オンライン・コミュニティ：eコマース、教育オンライン、非営利オンライン活動の最先端レポート』ピアソン・エデュケーション、下田みどり他訳

村本理恵子、菊川暁（2003）『オンライン・コミュニティがビジネスを変える：コラボレーティブ・マーケティングへの転換』NTT出版

田中共子（2000）『留学生のソーシャル・ネットワークとソーシャル・スキル』ナカニシヤ出版

横田雅弘・白土悟（2004）『留学生アドバイジング：学習・生活・心理をいかにサポートするか』ナカニシヤ出版